

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築プログラム
拠点機関におけるデータ共有基盤の構築・強化委託業務 委託業務概要

業務実施研究機関

研究機関名：学校法人 谷岡学園 大阪商業大学
本部所在地：大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10
代表者氏名・役職：谷岡 一郎・学長

業務実施研究所等

研究所等名：大阪商業大学JGSS研究センター
所在地：大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10
代表者氏名・役職：岩井 紀子・センター長

業務主任者氏名・役職

氏名・役職：岩井 紀子・センター長

委託業務実施期間

平成30年10月16日～2021年3月31日

業務実施体制図、説明文（概要）

1. 業務実施体制

本拠点では、拠点が取り組む業務など重要な事項については、運営委員会で審議する。本業務委託決定後の10月27日に運営委員会を開催して、本業務とかかわるJGSS公開データの追加データ利用体制の構築、EASSデータの整備責任を負うこと、他機関の保有するデータ整備の支援などについて審議した。図1には、本拠点の専属研究者・事務職員以外に、運営委員会の構成、嘱託研究員の位置づけ、共同研究に取り組んでいる中国・韓国・台湾の研究機関、助言・協力を得ている機関、個票データセットを寄託している機関、本拠点の専属・嘱託研究員と運営委員が理事や役員を務める（務めた）学会も記載している。本拠点は多岐に亘る研究者コミュニティの声を、調査内容やプロジェクトの進め方に反映させている。

表1には、EASSで連携を組む4チームが実施している全国調査の名称、抽出方法、調査方法、調査頻度、研究代表、EASS事務局を担当した年度とモジュールを示している。

本拠点では、業務主任者が統括責任者となり、業務主任者を含む専属研究者3名がそれぞれ、アーカイブ機能の強化、海外発信・国際連携の強化、データ間の時系列等接続関係の整備を監督する。研究機関の長は、データ共有について助言する。日常的には、業務主任者と、業務に精通する3名のPD研究員（1名は元研究員）が、新たに雇用する4名のPD研究員に助言しながら、業務を進める。新規雇用するPD研究員は3名が週40時間、2名が30時間の勤務を想定する。現在30時間勤務のPD研究員A（ハングル・中国語・データ作成堪能）が40時間勤務に移行し、40時間で再

業務項目	担当責任者（職名、エフォート率%）
① データアーカイブ機能の強化（共有化） JGSSデータの整備	岩井 紀子（センター長、30%）
② 海外発信・連携機能の強化（国際化） JGSSデータ英語版の構築およびEASSデータの構築	佐々木 尚之（公共学部 准教授、10%）
③ データ間時系列等接続関係の整備（連結化） JGSS/EASS累積データおよびパネルデータの整備	宍戸 邦章（公共学部 教授、20%）

び勤務に就くB（英語・データ作成堪能）と、現在30時間で勤務するもう一人のPD研究員C（データ作成堪能）の3名が、新たに雇用する研究員4名を指導しながら進める。

データの整備、公開・寄託に伴う業務を並行して進めるため、年度初めに工程表を作成して壁に貼り、進行状況を確認・修正しながら進める。本拠点には、調査データの収集・作成・処理・保存・共有の作業を効率的に進めるために、各工程について、代々のPD研究員と事務スタッフにより作成・更新された「作業マニュアル」がある。また、月に1回全員でミーティングを持ち、業務の進行状況を確認し、業務が集中しないように応援体制をとっている。

壁に貼る工程表と作業マニュアルは、業務のシンクロと効率化を図るために工夫されたものである。ミーティングで協議・決定したことは、ミーティング記録（調査や内容ごとに見出しが立っている）に残し、多忙でミーティングが開催できない時も、ミーティング記録の中に遂行状況を記すなどして、情報を共有して、業務を進める。

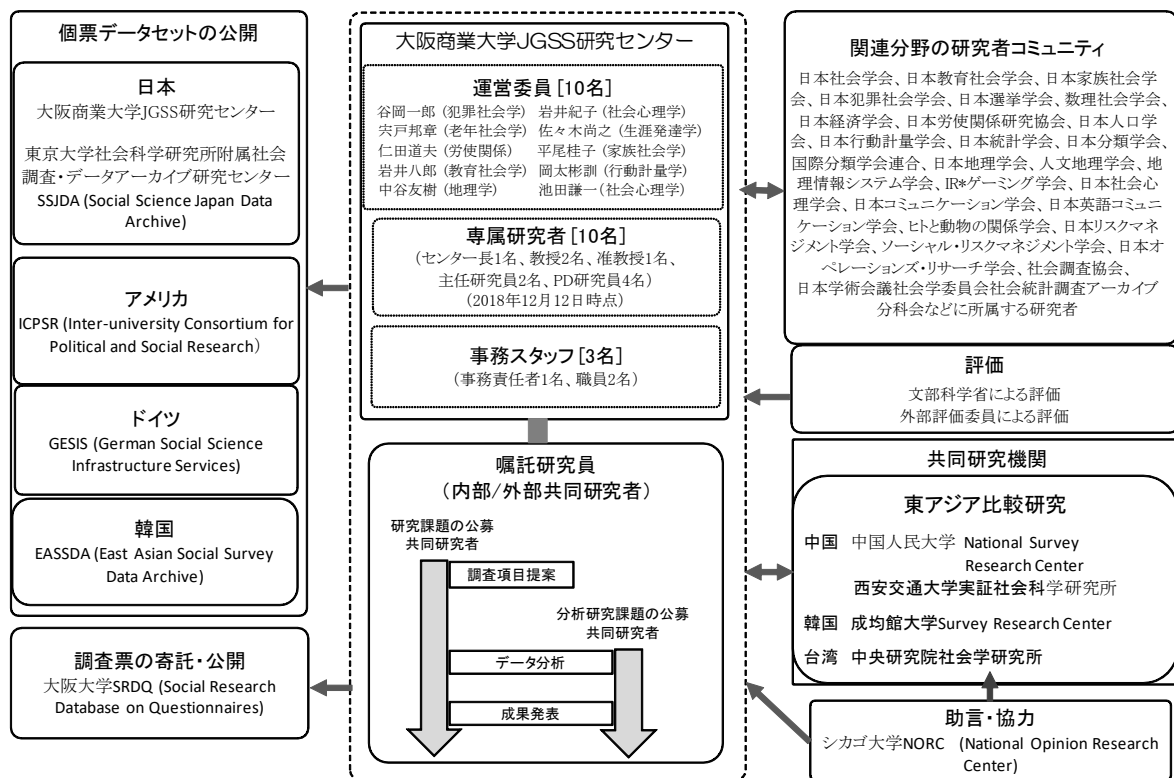


図1 本拠点の実施体制と共同研究機関・連携研究機関・関連する研究者コミュニティとの関係

表1 East Asian Social Surveyプロジェクトの連携体制

	日本	韓国	台湾	中国
調査名	日本版総合的社会調査 Japanese General Social Surveys (JGSS)	Korean General Social Survey (KGSS)	台湾社会変遷調査 Taiwan Social Change Survey (TSCS)	中国総合社会調査 Chinese General Social Survey (CGSS)
調査主体	大阪商業大学JGSS研究センター・東京大学社会科学研究所(E06-12協力)	成均館大学校 Survey Research Center・ソウル大学校	中央研究院 社会学研究所	中国人民大学中国調査与数据中心・西安交通大学実証社会科学研究所・香港科技大学調査研究中心(E06-08)
研究代表(現)	岩井 紀子	KIM, Jibum	傅 仰止	王 衛東
EASS事務局担当	2008-09/2016-17	2004-05/2012-13/2018	2006-07/2014-15	2010-2011
担当モジュール	EASS 2010/2018	EASS 2006/2016	EASS 2008/2014/15	EASS 2012
調査対象	20~89歳の男女	18歳以上の男女	18歳以上の男女	18歳以上の男女
抽出方法	層化2段無作為抽出	層化3段無作為抽出	層化3段無作為抽出	層化4段無作為抽出
調査方法	面接・留置法の併用	面接法	面接法	面接法
調査頻度	2000から1~3年間隔: J03/06-12は留置2種類	2003から毎年 (2015以外)	1984/85から毎年; 1990以降は2種類	2003から毎年

配分（予定）額

（単位：千円）

平成30年度	平成31年度 （2019年度）	2020年度
32,500	32,500	32,500

※平成31年度（2019年度）・2020年度については予定額

業務の目的・意義、拠点機関としての役割

人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築プログラムは、人文学・社会科学研究に係るデータを分野や国を超えて共有・利活用する総合的なシステムを構築することを目的としていることから、大阪商業大学JGSS研究センターは日本学術振興会と一体となって本目的の達成に向けて取り組む。

本拠点は、20年以上に亘るデータの共有と国際連携の経験を踏まえて、JGSSデータを整備し、公開を希望する他機関のデータ整備を助け、データの英語化と国際統合データの構築を進め、累積およびパネルデータを整備し、関連文献の情報を収集・提供する。このプログラムに参加する他の拠点機関と連携して、データの匿名性を保証しつつデータの共有化を図る取組みを実施する。

業務計画の概要

本拠点では、PD研究員の増員とPC・ソフトの更新により、アーカイブ機能と海外発信にかかわる業務を大幅にスピードアップし、地点情報など追加データの利用やデータの時系列接続に本格的に取り組む。具体的には、①JGSS-2015、JGSS-2016、JGSS-2017、JGSS-2017グローバル化セッション、JGSS-2018、JGSS-2018グローバル化セッションのデータ作成、クリーニング、『基礎集計表・コードブック』編集・刊行、データ/調査資料寄託（日本語・英語）準備、②EASS 2014/2015ワークライフ、EASS 2016家族、EASS 2018グローバル化セッションのデータ作成、クリーニング、『基礎集計表』作成、データ/調査資料寄託（日本語・英語）準備、③日本語と英語での『日中韓台データ/10年の変化図解本』刊行、④JGSS公開データの地点情報など追加データの利用体制の構築、⑤JGSS累積データ2000-2018、JGSS-2009/2013/2019ライフコース調査の統合データ、EASS 2006-2012累積データなどの作成を進める。また、日本学術振興会と本業務に参加する他の拠点と連携して、⑥国内外のデータアーカイブへの寄託を検討している研究者や研究機関のデータ寄託準備を支援し、⑦次世代に残すべきデータとして整備・保管することが望まれるデータの整備を支援する。